

SDGs新聞

三菱地所レジデンス株式会社

木を切って使うと、地球が元気に！？

SDGsラジオを読みましょう！

みなさんは「木を切ること」にどんなイメージを持っていますか？地球環境によくない、というイメージを持っている人が多いかもしれません。でもじつは、木を切らないと、地球にとってよくないこともあるんです。木は光合成をして、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を吸収します。そして、木は長い時間をかけて成長し、たくさんの二酸化炭素をためこんでくれます。なので、ちょうどいいタイミングで木を切って、新しい木を育てることが大切なんです。そこでマンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」は、マンションを建てるときに育った木をたくさん使って、新しい木をどんどん植えられるようにしています。育った木を切って大切に使い、そしてまた新しい木を植えていく。このステキな繰り返しによって、地球が少しずつ元気になります。みなさんも地球のために、自分にできることを考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



森林のイメージ

「木を切る」と聞くと、自然をこわすことのように思う人が多いかもしれません。しかし、木を「ちょうどいいタイミングで切ること」は、地球にとって、とても大切です。木は光合成をして、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を吸収します。そして、木は長い時間をかけて成長し、たくさんの二酸化炭素をためこみます。特に元気に成長している木はたくさんの二酸化炭素を吸収します。そのため、ちょうどいいタイミングで木を切って使い、新しい木を育てることが大切です。そうすることで、森はこれからも二酸化炭素を吸収し続けることができ、森の元気を守ることもつながります。そしてそれは地球や未来を守ることもつながっていきます。

三菱地所レジデンスでは、マンションを建てるときに木材を適切に使い、新しい木が植えられるようにしています。成長して適齢期になった木を切って、木材としてむだなく使い、また新しい木を植える。この「地球にやさしいサイクル」を回すことで森や地球の未来を支えています。また、こういった取り組みのほかにも、住んでから使うエネルギーを減らす「ZEH-M Oriented(ゼッチ・マンション・オリエンテッド)」というマンションもつくっています。三菱地所レジデンスは、こうした環境にやさしい取り組みによって、2030年までに「二酸化炭素(CO2)の排出量を2019年よりも50%減らす」ことをめざして取り組んでいます。2025年度には、その目標を5年早く達成し、2019年度と比べて約54%減らすことができました。これからも、地球環境を守るためのさまざまな取り組みを続けていきます。

☑ キーワード

光合成

植物が太陽の光を使って、自分で栄養をつくることを「光合成」といいます。植物は二酸化炭素と水で栄養と酸素をつくり出します。これによって植物は成長し、私たちが呼吸するための酸素もつくられます。

木の適齢期

木(スギ)は、芽が出てから40年をこえると二酸化炭素を吸う力が弱くなるとわれています。木の種類によってちがいはありますが、20年から40年ほど育った木が「切るのにちょうどいい年齢(適齢)」とされています。

ZEH-M Oriented(ゼッチ・マンション・オリエンテッド)

エネルギーを少なく使い、環境にやさしい工夫がされたマンションのことです。暮らしに必要な電気代もおさえられます。

☑ 対象ゴール



みなさんにできること！

森林がずっと元気であり続けるためには、どうすればいいか、みなさんで話し合ってみましょう。

- おさらい
- 元気に成長している木は、たくさんの二酸化炭素を吸収する。
 - ちょうどいいタイミングで木を切って、新しい木を植えることが森林や地球環境を守るためにはとても大切。
 - 三菱地所レジデンスは木材をたくさん使い、また新しい木を植えることで「地球にやさしいサイクル」を回している。

メモ



がどうさんしょう みつびしじしょ かんきょう ふ かていげん と く 画像参照：三菱地所レジデンスの環境負荷低減の取り組み (三菱地所レジデンスHPより)



SDGs ラジオ